

実践⑪ 大久保 忠宗さん(湧水町)

湧水町に住んでいる、大久保と申します。北九州市出身で、就職で鹿児島に来てから早 30 年。家庭を持ち、転職を繰り返し、気が付けば鹿児島暮らしの方が長くなりました。

私が読書活動に携わるようになったのは、鹿児島県青年会館「艸舎」で行われた「地域再発見のための読書活動」のスタッフになったのがきっかけでした。鹿児島県内の青少年リーダーや地域の人々の人材育成を目的とした活動で、2001 年から始まりました。

「読書は嫌いじゃないけれど青年と読み聞かせ？」当時の私は独身かつ青年団活動が忙しい頃で、読書活動の大切さが理解できませんでした。周りから「子どもをもったときにわかるようになる」と言われていました。

実際に読み聞かせの活動をするようになったのは、PTA活動の一環として、小学校の朝の会に行つて読み聞かせを行ったのが始まりでした。自分の子以外にも読み聞かせをするなんて新鮮で貴重な経験です。「このクラスの子たちが喜んでくれる本はどれかなあ」、「このクラスにはまだ難しいかなあ」と考えながら図書館で本を探して回るのも楽しいです。学校での子どもたちの様子も、少し伺い知ることもできます。

また、湧水町を楽しくしようとしている町おこしグループ「湧水 i s m」でも読み聞かせ活動を始めました。図書館等で行われる読み聞かせに出向いて行っています。PTAの読み聞かせより自由度が高いため、歌ったり落語をしたりそれぞれが工夫してやっています。そんな姿を見て育った我が子たちも、一緒に読み聞かせをするようになりました。家族で読み聞かせの練習をすると、読書を通じて繋がっているなど感じます。

うちの子たちも思春期に入り、家族揃つて読み聞かせを披露する機会は減るとは思いますが、これからもちょっぴり読書活動に貢献できる家族関係と人間関係を作っていけたら良いなあと思っています。

